

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援・放課後等デイサービスSA-N-PO庚午教室（放課後等デイサービス）		
○保護者評価実施期間	令和7年1月18日		令和7年2月9日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	32名	(回答者数) 22名
○従業者評価実施期間	令和7年1月17日		令和7年2月2日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	12名	(回答者数) 12名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年2月10日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	新しい事業所ということもあり、前例などがなく、色々なことに挑戦していくことができる。	親子イベントを企画し、非日常的な体験をすることができる機会を作っていくようにしている。今年度は田植え、稲刈りができる法人内のファームに行った。	利用しているお子さまだけではなく、ご家族（ごきょうだいを含む）で楽しむことができるイベントを企画していく。色々な経験、体験をすることができるようにイベントの内容を考えていく。
2	利用しているお子さまの「好き」「楽しい」「嬉しい」気持ちを大切に、やりたいことに取り組める環境が強みになっている。	活動内容に関して、支援員からの提案もあるが、子ども達の意味や思いを尊重するようにしている。子ども達が「やりたい」と言ったことに対してすぐに「できない」などと判断するのではなく、どうやったらできるのかを一緒に考えていくようにしている。	子ども達のやりたいこと、挑戦したいことを選択肢が広がるように、支援員一人一人も研修に参加するなどして学び続けていく。
3	支援員一人一人が今までに色々な経験をしてきており、それぞれの得意分野で活動プログラムを組み立てていくことができる。	季節の行事や工作、イベントなど様々な視点から考えるようにしている。	それぞれの考えた活動プログラムを話し合い、それぞれの活動がばらばらなものではなく、関わり合いが持てるようにしていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	支援員一人一人の知識、経験に差があり、一人一人がより高い専門性を持って支援にあたることができていない。	新しい事業所ということもあるが、支援員の入れ替わりなどがあり、事業所としての支援に対するの共通理解を得ること、統一した支援を行うのに時間がかかる。その話し合いをする時間の確保が難しい。	外部の研修を積極的に受ける機会を設けたり、法人内で研修を受けることができるようにする。（法人内の研修については令和7年度から始まる予定。）また、事業所内で相談できるように話し合いの時間を増やす。
2			
3			